



かごしまの地域を元気に! /

共生・協働の地域社会づくり

薩摩川内市

湯田地区コミュニティ協議会

お年寄りが元気、 子どもたちが元気、 地域が元気



プラムロード 菅原道真公探検隊 ※山道の草払いも地区民で

薩摩川内市の市街地から阿久根市方面へ車で10分、日本の名湯百選「高城温泉」の看板を右折し5分ほど走ると、山あいに広がるのどかな田園風景が見えてきます。ここは、薩摩川内市湯田地区。

平成16年10月に合併した薩摩川内市は、市内を48地区に分け、コミュニティ協議会制度を取り入れて6年目を迎えます。その一つである湯田地区コミュニティ協議会は、7つの自治会からなり、290世帯、人口583人、住民の半数が65歳以上という県下でも高齢化が進んでいる地域です。

この現状を目の当たりにし、「湯田をいけんかせんといかん」という熱い想いで、地域づくりに取り組んでいるのが、湯田地区コミュニティ協議会です。副会長の岩元博徳さんは、県が行う「共生・協働リーダー養成講座」を昨年に引き続き本年も受講している熱心な一人で、会長の松下忠行さんを補佐して共に精力的に活動しています。

湯田地区コミュニティ協議会では、「お年寄りが元気、子どもたちが元気、地域が元気」を合言葉に、地区民を中心としたチャリティースポーツ大会や地区文化祭、地区外からも参加者を募って行うプラムロード菅原道真公探検隊などさまざまなイベントを実施し、地区民の融和と湯田のPRに努めています。

また、県のリーダー養成講座で学んだ鹿

屋市柳谷集落の収益事業をヒントに、遊休農地を活用したサツマイモや菜種、黒米栽培などにも取り組んでいます。本年度は、菜種から搾った菜種油や黒米から醸造した黒米酢など地域の特産品の開発に取り組み、黒米酢については、ネーミングを地区民から募集するなど、3月の販売に向けて準備を進めています。

このような湯田地区においても、協働による地域づくりに対して、10年ほど前はなかなか理解が得られませんでした。が、コミュニティ協議会制度の導入や役員の方々の熱心な呼びかけにより「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識が育ってきたそうです。

「今では多くの地区民が協働作業へ積極的に協力してくれます。少しではあります。が収益もできてきたことがみんなの喜びです」と笑顔で語る岩元さん。

地域の将来を託す後継者の育成や特産品のさらなる商品化、昔の街並みを生かした高城温泉街の復活など湯田地区の挑戦はこれからも続きます。



サツマイモの収穫

副会長からひとこと

人を動かすには、感動する仕掛けづくりが大切です。湯田の地域おこしの第一歩として、黒米酢も完成間近です。

これからも、夢と希望に満ちたまちづくりをめざします。

湯田地区へぜひお越しください。



岩元 博徳 副会長



古い街並みの名湯高城温泉街(西郷ゆかりの地)

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進課(県庁9階)

☎099-286-2241

◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) ☎099-221-6613

関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。